

流れる型の土工への場合には……、自分も以前は、しかるべき世間並みの、いや、それ以上の人間だったと、引かれ者の小唄式に言っているにすぎない。

その賤業意、または賤民意識といつてもよからう。を伝える言葉に「三者三方」というのがある。三者とは、医者、儒者、武者のことであり、三方とは、土方、馬方、舟方のことである。三者と三方を並べて対照させたのは、三者を三方より上部と見立てているわけではない。「出家、侍、犬、畜生」というのと同じ皮肉がふくまれていると思つてよい。

——日野善太郎と限りなく六月と雑誌AMANAの連載第十七回「飯塚暮し」(一九七二年)より